



(写真) Globovision “サブ検事総長 2023年～24年にかけて5回のクーデター阻止を発表”

野党陣営のクーデター計画？

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

大 統領選を前に与野党の政治的な緊張が高まっている。

1月22日 タレク・ウィリアム・サアブ検事総長は記者会見を実施。一部の野党関係者が2023年から複数回にわたり計画してきたマドゥロ政権倒壊計画について説明した。説明の内容が事実かどうかは定かではないが、少なくともマドゥロ政権はこの内容が事実という前提で話を進めることになる。

本稿では、サアブ検事総長が説明したマドゥロ政権倒壊計画の内容について紹介したい。

クーデター関与疑惑で野党関係者ら指名手配

タレク・ウィリアム・サアブ検事総長（以下、サブ検事総長）によると、マドゥロ政権は、2023年から現在にかけてベネズエラの世界秩序を混乱させるような計画を5回阻止したという。

この計画には、野党政治家・軍人・メディア関係者などが関与していると指摘。計画への関与が疑われる人物を指名手配にかけると発表した。

具体的に指名手配された人物は以下の通り。

Tamara Zulay Sujú 氏、Wender Villaloboss 氏、Norbey Marín 氏、María Sebastiana Barraez 氏、Mario Carratú Molina 氏、José Antonio Colina 氏。

これらの人物の中で特に知名度が高いのは、Tamara Zulay Sujú 氏、María Sebastiana Barraez 氏、José Antonio Colina 氏だろう。

Tamara Zulay Sujú 氏は、急進野党系の人権活動家として知られる人物。以前から政治犯の解放などを強く求める人物として知られており、現在は外国（恐らくスペイン）に亡命している。

María Sebastiana Barraez 氏はジャーナリスト。特に軍部との関係が強いジャーナリストとして知られる。マドゥロ政権を批判するスタンスのジャーナリストだが、主要野党を敵に回すようなコメントをすることもある。

ただし、急進野党を批判するような指摘は少なくとも筆者は記憶しておらず、急進野党系のジャーナリストなのかもしれない。彼女も外国に居住している。

José Antonio Colina 氏は、米国フロリダ州を拠点とする「ベネズエラ政治迫害亡命団体 (Veppex)」の代表で、急進野党派の政治学者であり、マリア・コリナ・マチャド党首の支持者である。

5つのマドゥロ政権倒壊計画

サブ検事総長が説明したクーデター計画は以下の通り。

<第1計画 2023年5月>

マドゥロ政権が最初に計画を阻止したのは2023年5月。

1回目について、具体的な計画は説明しなかったが、この計画に関与した以下の11名を逮捕したという。

Uaiparu Guerere López 氏、Manuel Gedler 氏、José Ignacio Moreno 氏、Williams Cña 氏、Sarkis Sako 氏、Nelson Villasmil 氏、Ricardo Marcano 氏、Wilmer Soto 氏、Rafael Dum 氏、Luis Alvarado 氏、Franklin Alvarado 氏。

上記11名に加えて、3名を「公務員への抵抗」「重傷害罪」「公共物破壊」「国家への裏切りの計画罪」「軍事機密流出罪」「銃器違法取引」などの罪で指名手配にかけていると説明した。

<第2計画 2023年5月>

2回目の計画も2023年5月に計画されていた。

サブ検事総長は、この計画を「Caso Espionaje Guasqualito (グアスドゥアリト・スパイ事件)」と呼んでいる。なお、「グアスドゥアリト」とは、ベネズエラのアプレ州の都市の名前である。

具体的には、一部の軍人・民間人グループが外国の諜報組織と共謀し、大統領に害を成すこと、社会秩序を乱すことを目的として国家機密情報の入手を試みていたという。なお、外国の諜報組織は、コロンビアのボゴタで会合を行っていたという。

この計画に関与した Douglas Ruíz 氏、Jesús Rodríguez 氏、Rolando Rojas 氏は逮捕され、「国家への裏切りの計画罪」「外国政府との共謀罪」「軍事機密流出罪」などで起訴されている。

<第3計画 23年11月>

サブ検事総長によると、3回目の計画は、マドゥロ大統領の暗殺およびパドリーノ・ロペス国防相の暗殺計画だという。

サブ検事総長は、この計画を「La Viñeta」と呼んでいる (La Viñeta の由来は不明)。

この計画については、計画に関与した José Gregorio Montiel 氏の証言映像を公開。

Montiel 氏の証言によると、彼は軍人で大統領護衛職を務めていたという。

2021年にコロンビア人から「WhatsApp」経由で連絡を受け、やり取りを開始。そのコロンビア人は2020年5月に行われた「Gedeon 作戦」の首謀者クリベル・アルカラ氏の関係者だという。

当時彼は大統領の護衛を選定する仕事に就いており、計画に加担する人物を護衛職に採用し、マドゥロ大統領宅でマドゥロ大統領と国防相を誘拐する計画だったようだ。

また、誘拐後はペタレに移動し、マドゥロ大統領を誘拐した旨を協力記者らが拡散する予定だったという。

しかし、どのような手段かは不明だが、マドゥロ政権側は計画を阻止し、計画に関与した José Daniel Mendoza 氏、José Antonio Moreno 氏、Audelino Bermúdez 氏、Jhonathan Abache 氏らを逮捕した。



(写真) 国営報道局 (VTV)

“クーデター計画について証言する Montiel 氏”

<第4計画 時期不明>

4回目の計画は「Fortunato 事件」。

この事件は、米国「中央情報局 (CIA)」に対して、ベネズエラの情報を流そうとしていた5名の人物を逮捕したというもの。

逮捕されたのは José Fortunato Guerrero Rojas 氏、Daniel Rivas 氏、Jholmar Cardénas 氏、Jesús Alberto García 氏、Edgar Carillo 氏の5名。「Fortunato 事件」のネーミングは、逮捕者の名前から取ったものと思われる。

彼らはコロンビアからベネズエラへ違法な手段で入国を試みたが、失敗したという。

<第5計画 23年12月～24年1月>

最後の計画は、2023年12月末～24年1月にかけて行われた計画。

サブ検事総長は、この事件を「Brazalete Blanco 事件（白いブレスレット事件）」と呼んでいる。

この事件に関与したベネズエラの元軍人 Angelo Heredia 氏を24年1月16日に逮捕。サブ検事総長は Heredia 氏の証言映像を公開した。

Angelo Heredia 氏はラモベルデ刑務所の看守を務めていた人物で、2019年12月にコロンビアへ逃亡。

逃亡後はマドゥロ政権倒壊のためコロンビアで活動していたが、コロンビアでペトロ政権が発足したことで、ベネズエラへ身柄を引き渡されるリスクが生じたため、米国に移住。米国でマドゥロ政権倒壊計画への関与を続けていたという。



(写真) 国営報道局 (VTV)

“クーデター計画について証言する Heredia 氏”

Heredia 氏は、マドゥロ政権を倒壊させることを目的にベネズエラへ入国する計画を開始。

同計画を進める上で、José Antonio Colina 氏など野党関係者らとコンタクトを取り、ベネズエラ（タチラ州）へ入国するための協力を得たという。

計画は、タチラ州軍事施設を占拠し、タチラ州知事を拘束。記者らの協力を受けて世論を盛り上げ、カラカスまで影響を拡大させる予定だったという。

影響力を拡大させる過程で、学生・軍人・野党政治家などの声明も想定していたと発言。Heredia 氏は、野党政治家の名前にも言及しているが、映像では自主規制を目的とした「ピー」というモザイク音で名前がかき消されている。

ただし、Heredia 氏の口の動きが「マリア・コリナ・マチャド」と言っており、マチャド氏が同計画を拡大させることを期待していたと理解できる。

なお、Heredia 氏によると、計画の協力者（Mario Carratú Molina 氏）がマチャド氏（口の動きを見る限りマチャド氏と思われる）の発言用原稿を用意していたという。

一部の野党系記者・政治関係者・YouTuber などはこの計画の実行日時を事前に把握しており、世論を動かすための協力を取り付けていたと説明した。

また、Heredia 氏によると、今回サブ検事総長が指名手配をかけた Mario Carratú Molina 氏、José Antonio Colina 氏らはCIA や米国軍部と関係が強く、同計画は米国政府も事前に把握していたことを示唆している。

サブ検事総長によると、Heredia 氏以外に同計画に関与した Ronald Alejandro Ferrer Vera 氏、Guillermo Henry César Siero 氏、Tomás Martínez Chico 氏、Diana Desiree Victoria Justo 氏ら 4 名も逮捕されたという。

マチャド氏の大統領選出馬 門戸閉じるか

以下は個人的な見解だが、今回サブ検事総長が発表した内容が事実かどうかは分からない。

同時に、この内容が虚偽であると一蹴できるほど野党を信頼していない。

筆者が考えるに、前述の 5 つの計画は完全な事実無根ではないだろう。ただし、一部脚色や編集が加えられており、マドゥロ政権側の都合の良いような内容になっているのではないだろうか。

もちろん野党側はこの情報を「マドゥロ政権のフェイクニュース」と一蹴し、完全否定するだろう。

しかし、最も重要なのは、マドゥロ政権側はこの内容を事実と捉えて今後の政治決定を下すということである。

上記の計画の中でも最も重要なのは、5 回目の計画だろう。仮に Heredia 氏が言及したクーデター計画にマチャド氏が関与していたとすれば、公職権停止措置が解除される可能性は更に低くなる。

そして、マドゥロ政権側は「同計画にマチャド氏の関与があった」と認識できる状況にあるということが重要だろう。

Montiel 氏と Heredia 氏は 2 重スパイ？

もう一点気になるのは、今回の事件の詳細について証言をした José Gregorio Montiel 氏と Angelo Heredia 氏である。

証言映像を見る限り、彼らは乗り気で証言をしている。スラスラと計画を暴露しており、計画を証言することに自責の念や無念の思いは感じられない。

マドゥロ政権側に証言を強要されている可能性はあるが、少なくとも台本を読まされている様子はない。

映像を見る限り、自分の頭の中で理解した内容を語っているように思える。ただし、淀みなくしゃべりすぎており、怪しい。

不本意な証言する時は出来る限り情報をぼかしたいと思うのが通常心理だと思うが、彼らは持ち得る全ての情報をさらけ出そうとしている印象がある。

もしかすると、José Gregorio Montiel 氏と Angelo Heredia 氏は、マドゥロ政権から離反して野党側の工作員になったかと思いきや、実はマドゥロ政権に情報を提供するために活動していた 2 重スパイだったという可能性も否定できない。

以上